

今回は小さな小さな世界をのぞいてみます。テレビや新聞に「花粉予報」が出る季節になりました。早春に私たちを悩ます花粉症の原因物質であるスギ花粉って、いったいどんな形をしているのでしょうか。また、学校や公園の池、あるいは庭の片隅でいつも水がたまっている桶や植木鉢などがあつたら、そこからそっと水をすくって顕微鏡でのぞいてみましょう。たった一滴の中に、おどろくほどたくさんの生きものがいます。

風に乗る小さなつぶ

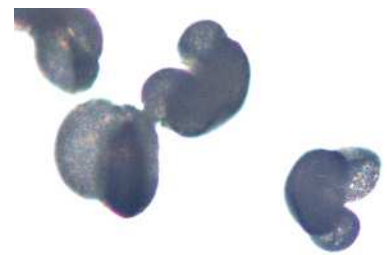
アレルギーとして私たちを悩ますスギ花粉は、ボール形で、リングのへたのような突起が出ています。時期になると自動車のフロントガラスにうっすら積もっているのがわかりますが、顕微鏡でのぞくとこんな形をしているんですね。アカマツは、大きなボール1個に小さなボールが2個ついたような形で、見方によっては“ミッキー”みたいですね。



スギ花粉

花粉症の原因植物じゃないのに...

ところで、花粉症の原因として「えん罪」と主張しなくてはいけない植物がいくつかあります。その代表はセイタカアワダチソウです。基本的に、花粉症の原因となるのは、風で花粉を運ばせる「風媒花」だけです。セイタカアワダチソウはアキノキリンソウに近いなかまで、小さいですが花びらがよく目立ちます。ということは、虫を呼び寄せているわけで、これは「虫媒花」です。花粉は大きめで粘着性があり、風で飛ぶことはありません。ただし、同じキク科のオオバタクサは風媒花なので、花粉症の原因となります。



アカマツ花粉

風媒花ということ言えば、田んぼに植えられているイネも風媒花ですし、道ばたによくあるスズメノカタビラなども含めて、イネ科の植物はすべて花粉症の原因になる可能性があると考えてよいでしょう。



ユグレナのなかま

水の中の小さな生きもの

しばらく水がたまつたままの水たまりや、学校の用水池などから水をすくって顕微鏡で見ると、たくさんの生き物たちが動いています。ユグレナ類（ミドリムシのなかま）やケイソウ類など、めまぐるしく泳ぎまわるものからゆっくり動くものまで、見ていて飽きません。洗濯のくず取りネットなどを使って簡易のプランクトンネットを作ると、効率よく採集できます。



ケイソウのなかま

次回のお知らせ

ミニ観察会：3月9日（土）11時から

新聞 No.24 も観察会にあわせて発行します。

顕微鏡写真はすべて400倍で撮影していますが、それぞれトリミングしてあるので大きさの比率は一定ではありません。